



#### 4. 水管理(根を守る管理)

- ①幼穂形成期以降は、水不足にならないように注意し、出穂・開花・受粉が順調にできる環境づくりを心掛ける。出穂前後は、常時湛水に努め乾かし過ぎないようにします。
- ②刈取前の落水は、できる限り辛抱し、登熟の向上と立毛胴割れ防止に努めましょう。

#### 5. 病虫害防除(早期発見・早期防除)

- ①共同一斉防除
  - ・共同一斉防除は決められた日に行う。
  - ・風向き及び周辺の状況に注意して散布する。
  - ・マスク、手袋を使用する。
- ②いもち病
  - ・共同一斉防除薬剤(フジワン粒剤)
  - ・茎数が多く過繁茂なほ場や、朝露などで露の落ちにくいほ場、前作で「いもち病」が発生したほ場では、特に発生に注意する。
  - ・発生を認められた場合、ブラシン粉剤DL(成分数2)を収穫7日前までに散布。環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。
- ③紋枯病
  - ・最高分けつ期から出穂期頃に、下部の葉が枯れあがる。出穂期以降は上部も枯れあがる。キヌヒカリ、みずかがみなどに比較的発生が多い。
  - ・昨年発生したほ場では、リンバー粒剤(成分数1)を収穫30日前までに散布。
  - ・発生が認められた場合、バリダシン粉剤DL(成分数1)を収穫14日前までに散布する。環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。
- ④カメムシ類
  - ・共同一斉防除薬剤(アルバリン粒剤)
  - ・カメムシ類の吸汁による斑点米は、下位等級格付けの原因になる。
  - ・斑点米被害の多い地域は、一斉草刈を行うとともに、追加防除を実施する。
    - 一斉草刈 1回目 7月初旬 7月6日(土)～7日(日)ごろ 2回目 7月下旬 7月27日(土)～28日(日)ごろ
    - ほ場内のヒエ抜きは、7月上旬までに終える。
    - 追加防除 MRジョーカー粉剤DL(成分数1)出穂10日～20日後に散布する(10aあたり3～4kg)。ただし、収穫7日前まで 環境こだわり栽培の場合にはJAに相談して下さい。

#### <幼穂の見方>

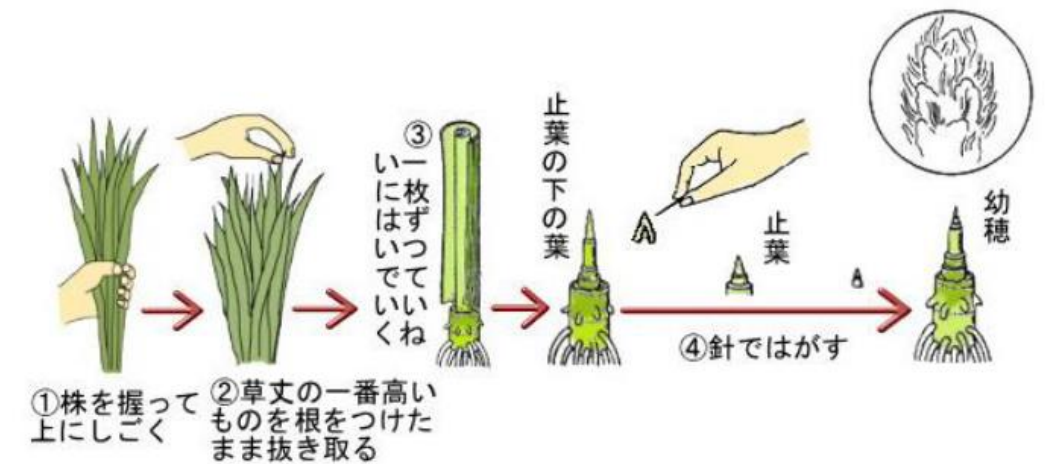


図 幼穂の観察の仕方

#### 6. トレサビ・GAPの記帳

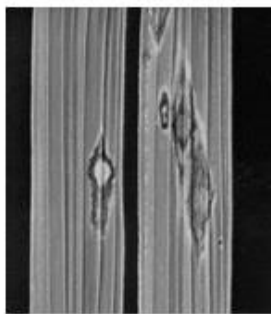
- ①共同一斉防除が終了すれば、一連の作業が終了しますので、トレサビの記入内容を確認し提出に備えましょう。なお、JAへの提出期限は8月14日になりますが、日本晴など防除が遅くなる場合は、見込みの実施日を記載いただきご提出下さい。
- ②GAP(生産工程管理)は、一年の作業を振り返り作業工程の留意事項を再確認し、次年度作業の改善を図りましょう。

#### 7. 環境こだわり農産物基準(水稲)

- ①土づくりの励行
- ②化学合成農薬成分数 7成分まで
- ③化学窒素肥料使用量 4kg/10aまで
- その他、環境保全型農業直接支払交付金制度には、別途要件がありますので、ご注意願います。

#### 8. その他

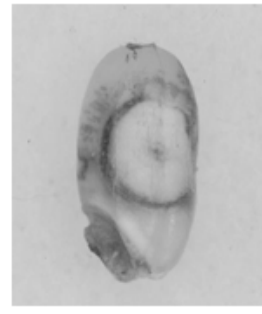
記載の農薬は、令和元年6月25日現在のものを使用しています。使用の際はラベルの内容を確認して下さい。



いもち病の病斑



紋枯病の病斑



斑点米被害写真



トゲシラホシカメムシ



アカスジカスミカメムシ



ホソハリカメムシ



クモヘリカメムシ

#### ■お問い合わせ■

湖東地区	愛東地区
本所 営農販売課(指導担当)	愛東経済課(指導担当)
NTT 0749-45-1111(直通)	NTT 0749-46-0076
IP 0505-801-0551(代表)	IP 0505-802-3576

※本所営農指導担当直通電話が開通されました。

JA湖東

JA湖東  
で検索

<https://www.ja-koto.or.jp/>



JA湖東のホームページにて、新着情報や営農情報などが随時更新されています。金融・経済・総務のそれぞれの部門に分けてページが作成されており、営農情報では栽培情報や販売情報、栽培履歴記帳簿等の様式データのダウンロードが可能です。携帯電話、スマートフォンにも対応しておりますので是非ご利用ください。